

# 救急業務に携わる 職員の教育のあり方

～「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」の策定と  
その背景

元総務省消防庁 救急企画室  
課長補佐 定岡 由典

(現：神戸市消防局 警防部司令課長)



# 救急業務領域における教育的背景

1

※平成22年度 救急業務高度化推進検討会（消防庁）報告書  
全国消防本部宛アンケート結果より

## 【救急救命士】

●病院内とは異なった環境下で行われる救急業務について、MC医師の指導の下、現場経験豊富な救急救命士が指導的立場を担うことが、消防本部の規模等に関わらず全国で一定の質が担保された教育を実施するにあたっては効果的である。

また、運用する救急救命士数の増加に伴い、各消防本部で再教育に要する財政的負担や警防人員（勤務員）の確保等、人的負担が増加していることが示唆され、教育を受け入れている医療機関にとっても、指導者となる医師や看護師の確保のための負担増大につながっていることが示唆された。

## 【救急隊員（救急救命士を除く）】

●救急隊員教育については、救急救命士の再教育とは異なり、必要な教育項目や教育時間等は示されておらず、各消防本部の規模や体制により実施実態は様々である。特に、規模が小さい消防本部ほど教育訓練の年間計画設定割合が低いなど、教育的背景は一定ではないことが明らかとなった。

## 【通信指令員（救急に係る業務）】

●通信指令員には、救急業務に必要となる情報の的確な聴取や、傷病者の緊急度・重症度の判断、口頭指導の実施など、医学的知識に基づく判断や技能が求められるが、通信指令員に対する救急教育については十分とはいえない状況が明らかとなった。

# 消防庁における検討体制（平成24年度・25年度）

※敬称略  
※所属は当時

救急業務のあり方に関する検討会

会 長  
山本 保博  
(東京臨海病院病院長)

救急業務に携わる職員の  
教育のあり方に関する作業部会

作業部会長  
横田 順一郎  
(市立堺病院副院長)

検討班設置

救急救命士班



班長：山口 芳裕  
(杏林大学医学部教授)

救急隊員班



班長：浅利 靖  
(弘前大学大学院教授)

通信指令員班



班長：坂本 哲也  
(帝京大学医学部教授)

# 各職域における教育のあり方 主な検討内容

3

(平成24年～25年度 主な検討項目)

## 救急救命士班

「指導的立場の救急救命士」のあり方について

- 必要性
- 役割
- 要件
- 養成方法（カリキュラム等）
- インセンティブのあり方
- 活躍の場 など

## 救急隊員班

「救急隊員の生涯教育」のあり方について

- 必要性
- 必要な教育（標準教育カリキュラム・必要時間等）
- 役割別に必要な教育について（内容）
- 関連様式の策定 など

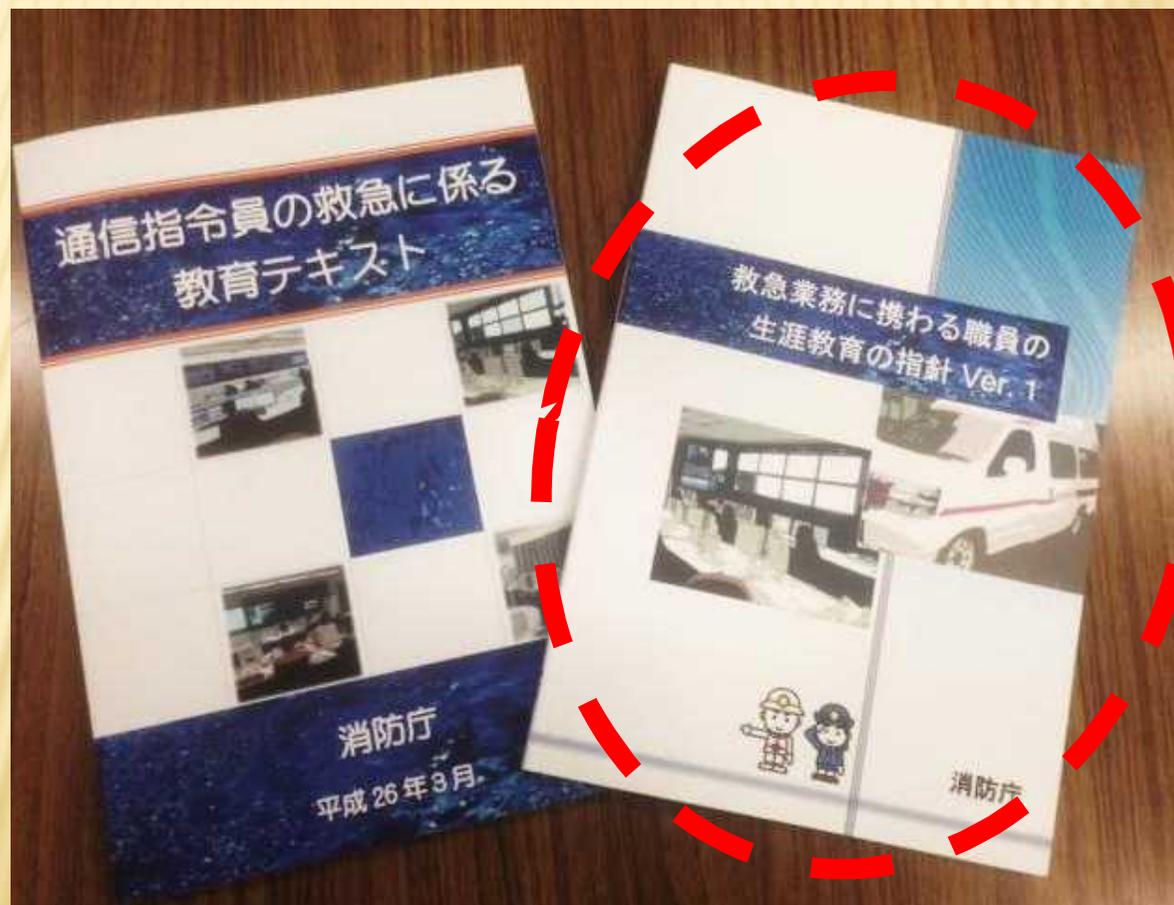
## 通信指令員班

「通信指令員の救急に係る教育」のあり方について

- 必要性
- 必要な教育（内容）
- （標準）口頭指導プロトコル
- 119番通報からの導入（聴取）要領
- 教育テキストの策定 など

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」の策定

「生涯教育の指針（右）」と「通信指令員の教育テキスト（左）」



※いずれも平成26年3月消防庁策定

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針 Ver. 1」

5

## 策定の経緯

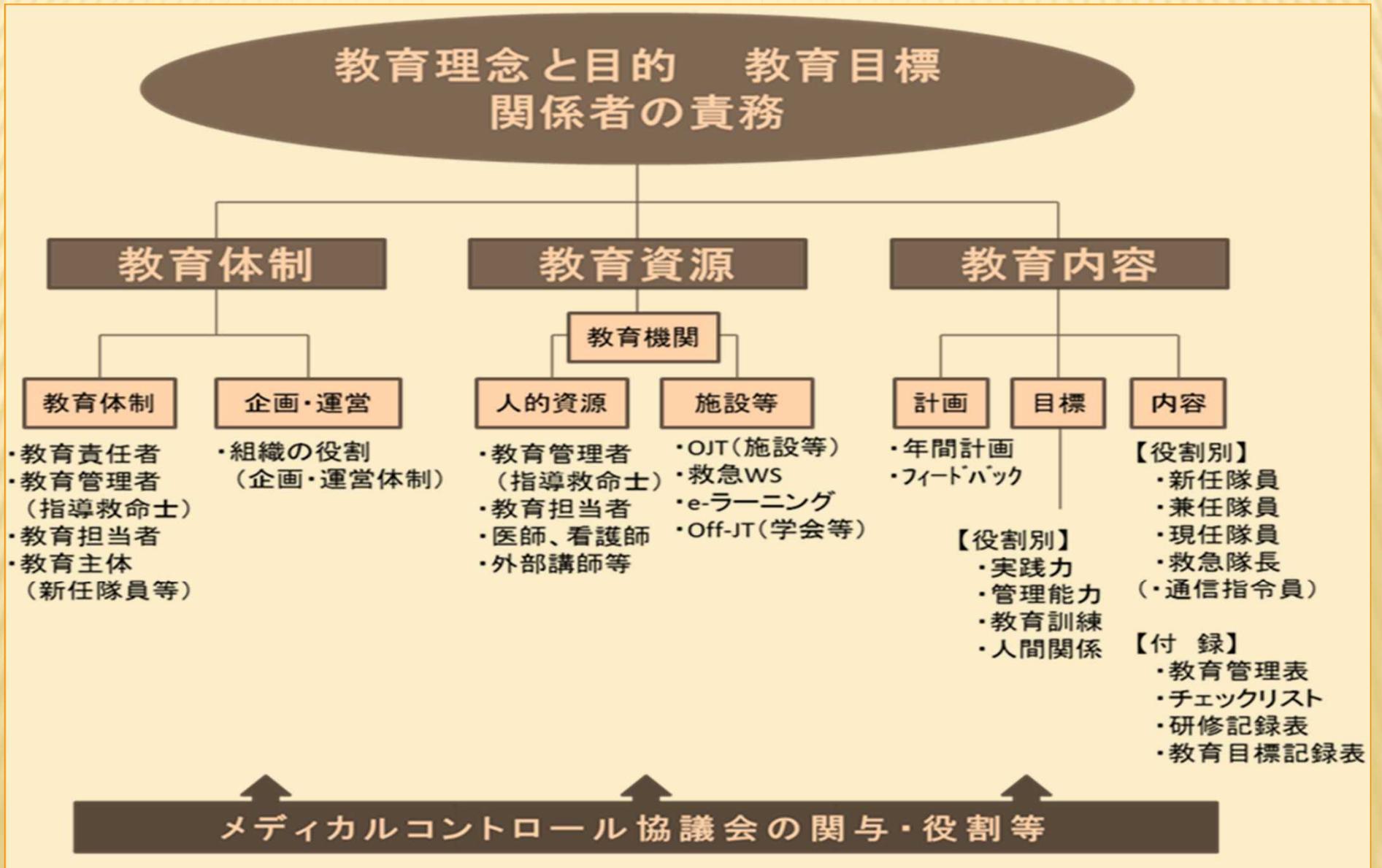
- 消防庁において2年間にわたり検討されてきた教育のあり方（指導救命士、救急隊員生涯教育、通信指令員教育）について、全体像として明らかにする必要がある
- 特に、救急救命士・救急隊員・通信指令員の各職域において検討されてきた教育のあり方については、全体として整合のとれた教育システムとして提供する必要がある
- また、生涯教育の必要性や教育理念といったものについて整理し、併せて教育の目的や目標など、教育全般に係る事項について体系的に示すことで、これからの救急隊員生涯教育のあり方の方向性を示す「指針」として、全国的な活用が望まれる

「生涯教育の指針」の活用

「指針」として標準化された教育項目等を示すことで、消防本部の規模等かわらず一定の質が担保された教育が実施可能となり、ひいては全国で質が担保された救急活動が展開されることにつながるものと期待

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

## 生涯教育の指針(全体構成)



# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

7

## 内容例(教育理念と目的)

**教育理念** ※救急業務に従事する期間において基本となる理念

救急隊員は、救急業務に従事するのに際し、自らの社会的役割を認識しつつ、傷病者に対して適切に対応できるよう、基本的な能力を身につけること

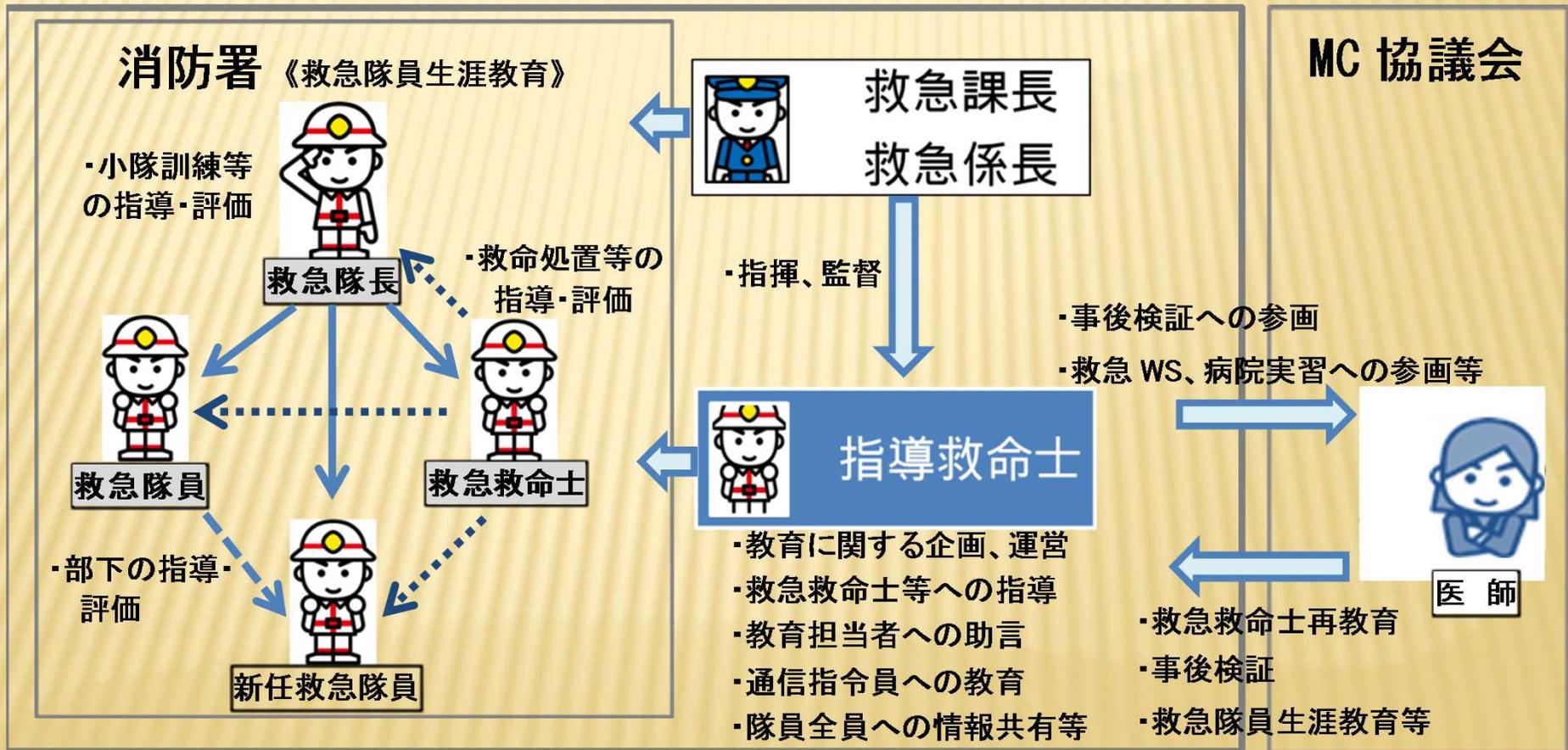
**目的** ※役割別となる教育の目的(目指すべき人材)

- 【新任救急隊員教育】 小隊としての役割を理解し、救急業務が実践できる人材の育成
- 【兼任救急隊員教育】 小隊としての役割が果たせるよう、自らが基本的手技を行い、プロトコルに沿った活動が実践できる人材の育成
- 【現任救急隊員教育】 救急隊員として熟達した救急技術を発揮し、救急現場及び教育・指導の場で、救急隊長を補佐できる人材の育成
- 【救急隊長教育】 隊長としてリーダーシップを発揮し、小隊(チーム)による救急業務の質の向上に寄与できる人材の育成

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

## 内容例(教育指導体制の例)

指導救命士を柱とした教育指導体制を構築するとともに、新任救急隊員以外はすべて「教育担当者」と位置付け、「教えながら学ぶ」ことで救急隊員全体の能力向上を図るとともに、「教育の連鎖」の中で、ベテランが現場経験等を後進に直接伝えることが容易となる

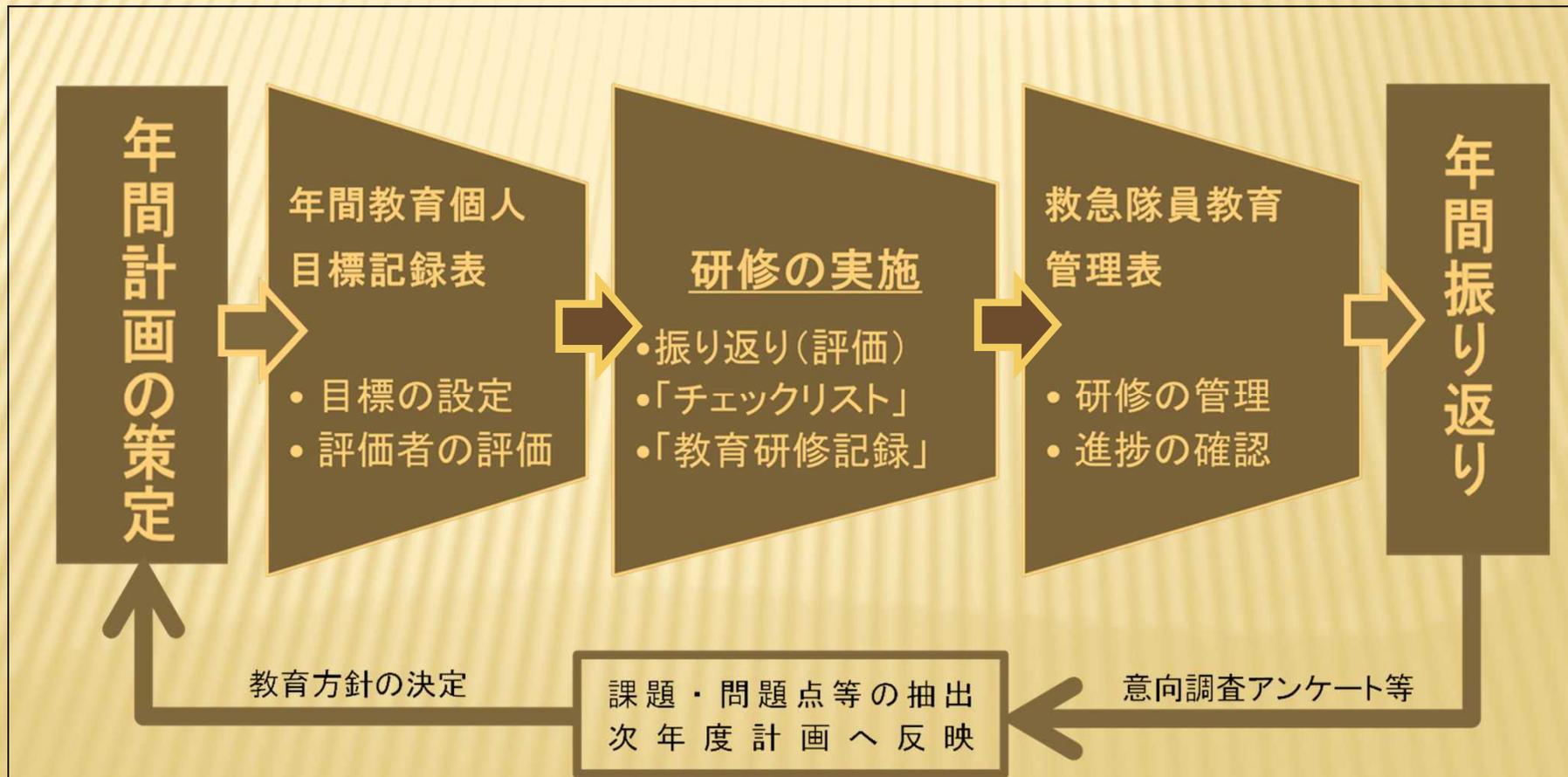


※消防署に指導救命士を配置した例。ここでは新任救急隊員以外をすべて「教育担当者」として位置付ける

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

## 内容例(計画的な生涯教育の推進)

- 計画の策定から実行、検証、見直しと、教育に関するPDCAサイクルを構築することで、教育ニーズに対応しつつ、必要とする人材の育成に寄与できる救急隊員生涯教育の実現を目指す
- 研修の振り返り(評価)や進捗管理等、必要な様式についても新たに策定



# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

## 内容例(各種様式の策定①)

### ● 個人教育目標記録表

～目標の設定と期末の振り返り用

様式例(教育目標記録表)

共通

平成 年度 個人教育目標記録表

所属	
氏名	
役割	新任・兼任・現任・隊長

※年度当初に記入します 記入日:平成 年 月 日

◎あなたが今年度、個人として目標とすることはどのようなものですか?  
(例:一ができるようになること、一を高める(覚える)こと、など具体的に)

◎上記目標達成のため、どのように自己研鑽を図っていきますか?

◎あなたが今年度、特に重点を置く教育項目や指導してほしい項目はどのようなものですか?

【評価者記入欄】※評価者が助言した内容や参考となる事項等を記入します

評価者氏名: \_\_\_\_\_

※年度末に記入し振り返ります 記入日:平成 年 月 日

◎この1年を振り返り達成できたもの、できなかったもの、来年度に向けた課題等を記入します

0%
50%
100%

【評価者記入欄】※振り返りで評価者が助言した内容や参考となる事項等を記入します

評価者氏名: \_\_\_\_\_

※この記録表は他の研修資料等とともに保存し、自己の成長の記録としましょう

### ● 救急隊員教育管理表

～個人の進捗管理用(役割別)

様式例(教育管理表:隊長用)

平成 年  
度 救急隊長教育管理表

所属救急隊  
課 長  
氏 名

大区分	中区分	小区分	内 容	取得 単位	実施日	指導者 評価率 の別			
I 1年度内において、必ず実施するもの(必ず実施)	※指導者・評価者として関与	救急隊員個人教育 手エンクリスト	知識	救急科助産師(学科)の実施	5		●-●		
			観察等	1 状況判断・初期対応	1		●-●		
				2 血圧	1		●-●		
				3 血中酸素飽和度	1		●-●		
				4 心電図	1		●-●		
			必要措置	5 口腔内清拭・吸引・咽頭異物除去	1		●-●		
				6 用手気道確保	1		●-●		
				7 経鼻エアウェイ	1		●-●		
				8 経口エアウェイ	1		●-●		
				9 BVMによる人工呼吸・胸骨圧迫	1		●-●		
				10 除細動	1		●-●		
				11 蘇生器具	1		●-●		
				12 止血	1		●-●		
				13 担架・固定	1		●-●		
				14 体位	1		●-●		
			特定行為 準 備	15 吸痰装置・異物除去	1		●-●		
				16 自動心マッサージ器・ショックパンツ	1		●-●		
				17 経鼻気道確保の資器材準備	1		●-●		
				18 気管挿管の資器材準備	1		●-●		
19 特殊担架準備・薬剤投与の資器材準備	1			●-●					
II 2年度内において、実施するもの(必ず実施)	※指導者・評価者として関与	救急隊員を指導 救急隊員安全の確保 研修	内傷性想定訓練(脱臼症・重症低酸素血症)	5		●-●			
			外傷性想定訓練(脱臼症・重症低酸素血症)	5		●-●			
			他隊連携訓練(多数傷病者事故・火災・救助等)	5		●-●			
			その他消防本部で必要と認める訓練①	5		●-●			
			その他消防本部で必要と認める訓練②	5		●-●			
所屬研修 (20単位)	※指導者・評価者として関与	救急隊員安全の確保 研修	★無菌文法・病院選別・医師引き継ぎ研修			●-●			
			★現場観察・判断・処置要領			●-●			
			★現場指揮・統制(隊員管理)要領			●-●			
			★安全管理・危機管理研修			●-●			
			★救護・搬送研修			●-●			
			各種プロトコル研修			●-●			
			感染防止研修			●-●			
			救急関連法規			●-●			
			救急活動事例・症例研究会等			●-●			
			メディカルコントロール体制研修			●-●			
①研修	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿									

※指導者・評価者の役割で関与することで単位とできる。受講者としては隊員安全研修等により実施する  
★印は、救急隊長研修として必要となる(他の研修研修と合わせて20単位となるよう選択する)

# 「救急業務に携わる職員の生涯教育の指針」 Ver. 1

## 内容例(各種様式の策定②)

### ●チェックリスト

～個々の研修と振り返り(評価) ①

1 1 酸素吸入		月 日実施	
区分	内容	☑	評価者コメント
酸素吸入	酸素吸入の適応と車載の各種マスク等について、特性・用途・使用方法等を理解しているか <i>point: それぞれの吸入酸素濃度など</i>		
	酸素バルブ・レギュレーターをゆっくりと開放したか マスク等から酸素が放出されていることを確認したか <i>point: リザーバー付きフェイスマスクの場合、リザーバーの膨らみを確認など</i>		
	マスク等と顔面の密着等は適切か		
	病態に応じた適切な酸素投与量について理解しているか		
所感・自己学習等記載欄			

1 2 止血		月 日実施	
区分	内容	☑	評価者コメント
直接圧迫止血	適切な感染防止対策が取られているか 出血部位を確認し、出血程度・性状を観察したか <i>point: 活動性、色調など</i>		
	出血部位を完全に覆うように、ガーゼ・三角巾などを当てているか		
間接圧迫止血 (止血点止血法)	適切な感染防止対策が取られているか 出血部位を確認し、出血程度・性状を観察したか <i>point: 活動性、色調など</i>		
	正しい止血点を選択しているか <i>point: 浅側頭動脈、上腕動脈、橈骨動脈、大腿動脈など</i> 出血部位の中樞側を強く圧迫したか <i>point: 緊縛止血法についても理解しているか</i>		
止血帯	止血帯について適正に使用できたか <i>point: 止血帯の適用症例について理解しているか</i>		
所感・自己学習等記載欄			

※計 25 項目

### ●教育研修管理表

～個々の研修と振り返り(評価) ②

平成 年度 教育研修記録表				共通
所属				
氏名				
役割	新任・兼任・現任・隊長			
※チェックリストにない集合研修・小隊訓練等について記録します				単位数
受講日時	平成 年 月 日	～	日	(計 時間)
研修名		研修場所		
講師等	所属先:	講師名:		
主な内容				
参考になった点、今後に役立てたい点、課題など				
評価者 記入欄	※評価者によるアドバイス等を記入します			
	評価者名:			

※この記録表は研修資料等とともに保存し自己の記録とします。評価者は記録表をコピーして保存します。  
 ※「教育管理表」に、受講した(評価した)月日と単位数等を記録し管理します。

※チェックリストにない教科項目

## 結 語

- 生涯教育の指針では、教育の必要性や教育理念、教育関係者の責務等に触れ、国民の生命、身体を守る消防職員として、あらためて救急に係る教育の重要性・必要性を喚起する内容とした
- ◆
- 生涯教育の指針では、指導救命士を中心とした教育指導体制の構築や、役割別となる救急隊員生涯教育のあり方など、職員の生涯教育の全体像を体系的に示す内容とした
- ◆
- このような標準化された教育指針として示すことで、消防本部の規模等に関わらず一定の質が担保された教育が実現可能となり、ひいては全国で質の担保された救急活動が展開されることにつながるものと期待される
- ◆
- 救急業務法制化から50年が経過し、新たな段階として今後、この生涯教育の指針を参考とした救急隊員生涯教育への取り組みや、MC指導の下、指導救命士を中心とした教育指導体制の構築が望まれる



ご静聴  
ありがとうございました



※神戸市HPより

City of KOBE